

親しく正しく和かに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫=大本山本興寺御開士大平日晋上人



No.65

令和8年6月1日発行

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉



本院：〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
猿江別院：〒135-0003 東京都江東区猿江 2-5-14
ホームページ <https://www.myojyuji.or.jp>



金沢本因寺市井友仙忌法要・第10回 報恩茶会

加賀藩の初代御茶堂頭、市井友仙を顕彰する、市井友仙忌と第10回記念報恩茶会（北國新聞社後援）は4月26日、友仙の菩提寺である法華宗本因寺（寺町5丁目）で開かれ、約70人が友仙をしのんで茶を味わった。
相澤一龍住職が席主を務めた茶席には、本能寺第136世貫首の日攝上人が揮毫し、寺名の由来でもある「本因妙為尊貴」の軸が掛けられた。相澤住職は、節目の記念で釜師の宮崎寒雉さんが制作した茶釜の湯でたてた茶を呈し、参加者は漆器や軸装などのしつらえを愛でた。
茶席に先立ち、本堂で友仙法要が営まれ、参加者が焼香して、友仙の遺徳に謝意をささげた。
（北國新聞 4月27日版 一部抜粋）



手前左：当住上人、右：相澤一龍上人、その後方：お点前はご子息の相澤龍仙上人

宗祖七百五十遠忌等記念事業

ご浄財ご志納のお願い
本覺山妙壽寺では、日蓮聖人七百五十遠忌等記念事業として、老朽化した本堂修理をはじめ、四つの事業を計画しております。
この記念事業は、皆様からのお力添えなくして成就が叶いません。
お一人おひとりから日蓮聖人へのご報恩とご先祖追善のご志納を賜りますよう、お力添えの程よろしくお願い申し上げます。
つきましては、ご志納方法等はお送りしました「趣意書」をご覧ください。何卒よろしくご志納のお願い申し上げます。
なお、既にご志納の皆様には衷心より御礼申し上げます。

猿江大祭で仏事勉強会を開催

5月2日午前11時、猿江別院において、猿江別院法要および猿江稲荷社例大祭法要が執り行われ、その後、午後1時より、初めてとなる仏事勉強会が参加者25名にて行われました。当紙「テラス」（インタビュー 61号）でこの30年の葬儀の変化についての座談会を掲載したところ、葬儀にとどまらず仏事全般についてお問合せ等があり、仏事について広範な勉強会の開催に至りました。プログラムは下記のとおりです。

1. 基調講話：仏事及び継承法の問題
大島義則氏（(公財) 全日本仏教会顧問弁護士・長谷川法律事務所）
2. 仏事について
「現在の葬儀事情」 中島正幸氏（セレモ中正 代表）
「最近のお墓事情」 水澤秀嘉氏（株式会社水沢石材 取締役社長）
3. 座談会
上記三氏により、現在の仏事諸事情や問題点、解決法について話合われる。
司会は当山徒弟・職員の間田顕教師。
なお、座談会終了後は三氏による個別の相談タイムが設けられました。



都仏日誌（東京都仏教連合会）

2/19 常務理事会	3/25 東京都宗教連盟理事会
3/1 (東京大会) 企画委員会	4/17 企画委員会 (Zoom)
3/2 理事会	4/24 企画委員会
3/3 全仏打ち合わせ	

法要のご案内（別紙参照）

7月16日(木) 正午 動物諸霊法要
孟蘭盆会施餓鬼法要 午後2時 孟蘭盆会法要

9月23日(水・秋分の日)
秋季彼岸会中日法要
初座：午前11時 第二座：午後2時 動物諸霊法要：正午

11月3日(火・文化の日)
宗祖第745遠御忌御報恩会式（御会式）

猿江別院御写経会

6月25日(木)
8月6日(木)
10月15日(木)
12月3日(木)
2月4日(木)
※毎回、木曜日 13時～19時
参加費：500円

妙壽寺動物廟

愛犬、愛猫、その他
動物のご供養
およびご遺骨
をお預かりし
ております。
詳細は受付まで

正隆会 月例講 ご案内

【SHORYU-kai】
午後2時開催

6月13日(土)	勉強会「法華経への誘い」 拝読 20
7月11日(土)	写経会
8月	休講
9月12日(土)	勉強会「法華経への誘い」 拝読 21
10月10日(土)	勉強会「法華経への誘い」 拝読 22
11月14日(土)	勉強会「法華経への誘い」 拝読 23
12月12日(土)	三千遍唱題行・勉強会「法華経への誘い」 拝読 24

俳句事始 如月 弥生 卯月

初午の茶会の菓子は狐顔
夜啼の燭の先の石畳
逝く人の惜むが如く沈丁花
春服の参道埋める善光寺
舟遊び花の雲往く水面かな

夕日疾くシルエットとなり松手入れ
春の陽を我がもの顔の涅槃山
鞭打てば老骨軋む去年今年

鴉 鴿
坂本正美
(新庭園主人・庭師)

寺日記 たらにつき

- 2月16日 専光寺（当山お向い）先代内室葬儀
- 2月23日 朝霞教会先代内室信院妙松日因大姉 23回忌法要
- 2月26日 国際仏教興隆協合理事会 於同会事務所
- 3月3日 とさわ木寄贈「柱時計」（昭和2年）修理完了し、客殿階段踊場に設置①
- 3月10日 春季慰霊大法要 於両国・東京慰霊堂
- 3月10日 法華宗教学研究発表大会 於東京国際フォーラム
- 3月16日 (公財) 東京慰霊協合理事会 春季彼岸会合同法要
- 3月20日 鳥山仏教会花まつり 於永願寺
- 4月4日 法華宗千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要②
- 4月10日 つつじ観賞会③ 当住上人中央、丸山ヤス子先生その右（婦人念）
- 4月26日 金沢本因寺市井友仙忌法要・第10回報恩茶会（上記参照）
- 4月18日 第1回猿江別院納骨堂運営委員会
- 5月2日 猿江別院法要・猿江稲荷春季大祭④⑤
- 第2回・晴明庵 4月23日 奉仕刀自報恩法要
- 猿江・猿江別院 2月12日・4月2日 写経会



A 2月末日、当山永代供養墓「正隆廟」の左側に新しく扉が設置されました
B 障子 C 絶滅危惧種のギンラン D 境内で咲いた大輪の牡丹と共に当住久美夫人
E 孟蘭盆法要 (7/16) に開花をめざして蓮の花を植えかえる久美夫人 F 染井吉野 G 糞虫



妙壽寺の樹木環境を守る 2庭師に聞く

株式会社小山造園 代表取締役
小山明仁氏
サイキツリーサービス合同会社 代表
斉木秀和氏

聞き手
三吉廣明上人 (三吉久美当住夫人)
令和8年4月11日 於 妙壽寺鍋島客殿



小山明仁氏



斉木秀和氏

住職 皆さん、おはようございます。早速ですが、私は以前から、妙壽寺の樹木剪定、伐採などをお願いしている庭師の皆さんに、樹木についてお話を聞きたいと思っておりまして、本日はよろしくお願いいたします。

妙壽寺は、1631年(寛永8年)の江戸時代の設立ですが、深川・猿江に長くありましたが、関東大震災により、この烏山の地に越してきました。この鍋島客殿の移築計画は昭和2年、移築したのが昭和4年です。ここに昭和4年の写真がありますが(左下の写真)、私が思うには、小山造園の小山さんのおじいさんがいる可能性があるのではなかったかと思分らないと思分りますが、それはさておき、今お寺では、小山造園さん、特に高所作業のサイキツリーさん、家内が管理している茶室前の茶庭のスペシャリストの坂本さんの3社に任せていただいております。

妙壽寺の樹木環境の変容

住職 今日の一番の話題は、この十数年で温暖化さらに熱帯になりつつある気象の変化と、それに影響される樹木の状況が、あまりにも急激に変わってきています。妙壽寺は、次の世代に樹木を残していきたいというのが、私なり、寺内関係者、あるいは檀信徒の皆さんの考えだと思っております。
久美夫人 小山さんは3代目と伺っていますが、おじいさんのお名前が。
小山 亀吉です。
住職 ああ、それはもう、よくお名前を聞いていました。



三吉廣明上人(左)と久美夫人(右)

久美夫人 私が聞いたのは、お寺にある古い灯籠は他で処分されることを小山さんがお寺にどうですかと持ってきたんですよ。

住職 私は子どもの頃からお父さんの松夫さんが、ずっとお寺に入っておられたのはよく存じています。お亡くなりになった直後、病院から搬送車で自宅に帰るときに、妙壽寺の前を通ってほしいと言われたんですよ。

久美夫人 そのお父さんに聞いたのは、菩提樹をおじいさんが植えたんですよ。
小山 それは聞いていないです。(笑)
住職 サイキツリーさんは、西沢つじじい園さんのご紹介で、高所作業をお願いしています。

数日前に、東京都の小池知事が都立公園の倒木問題について言及していましたが、砧公園での倒木により亡くなった方がいましたね。
小山 コナラなど3本倒れています。

住職 四、五年前に台風により千葉のゴルフ練習場で鉄柱が倒れて、近くの民家を傷つけたというニュースがあって、それが怖くて、斉木さんに掘ぎわの松の木を伐採してもらいました。大仕事でした。ただ、先々代の日照上人の俳句・短歌の雅号が「十九松堂」とくしよつどつ(一)でした。ということは、昭和2年の移転時に、19本の松がありましたことが、それが今は半数です。だんだん少なくなっています。

久美夫人 本堂の側の松の木を伐採してくださいましたのは小山さんでしたね。松くいで太さ2メートルの木が枯れて、あの頃から、気候が変わってきたという印象です。
小山 そうですね。

住職 20年ぐらい前から熱帯化しており、今温暖化というけれど、温暖なんて甘いものではないともかくお寺に来るお檀家さんが、タイやベトナムの東南アジアへ赴任して、夏休暇に帰国したときに、タイやベトナムよりも東京は暑いと言います。その暑さの種類もちよつと違うのではないですか。その辺は現場におられるお二人はわかっていますか。

小山 確かに暑いですが、昔は、三十二三度までいかなかったんですよ。
久美夫人 もう一年たつと、木が成長してジャングルになってしまいますね。

住職 小山さんには、大きい区画の墓所の植木の剪定や伐採などをお願いしていますが、この10年の違いは何かですか。
小山 毎年、とんとん剪定の時期が早まっています。花つきが早いですが、桜に関して、植えてもやはりこの気候で花つきはどうかです。

住職 ああ、そういうことですか。
久美夫人 桜も四五本枯れていますね。
小山 虫類もとんとん外来種が多くなつて...

住職 我が日常会話の中で、例えば、北海道でアジが獲れるとか、ブリはもう北海道に行つていくとか。そういう状況の中で、樹木も大変な状況になっているわけですね。

五丁目緑地計画と寺町

住職 かつて熊本さんという3代か4代前の世田谷の区長が、世田谷区の一丁目33という緑地を33%にしてという政策を出されたが、区内の神社とお寺も対象になりましたが、区民にとつてやはりお寺は自然と緑が多いというイメージがありますか、斉木さんはいかがでしょうか。
斉木 皆さんが集まるオープンな場所と言えますね。

住職 基本的に門が開いていないところはないですね。他の地域と比べて、このお寺の特徴などありますか。
斉木 こちらはやはり大きな木が多く、自然が豊かですね。今、老朽化などを点検していますが、今のところ大丈夫です。ナラ枯れだと虫が入つていると思つて点検しましたが、その点はなかつたです。やはり気候の変化により乾燥して、土壌水分がなくなり、老朽化もあると思います。

住職 この近くのお寺で、二三年前に、目印になるケヤキが枯れたんです。そのご住職は、大ショツクでした。それこそ仏教は諸行無常ですが、永遠にあることはあり得ないですが、なるべくそういう大木もきちんと寿命を全うしてもらいたいという思いがあります。その辺はしっかりと管理していかなければと思います。ツツジ観賞でお寺を開放している日がありますが、当初より、大分花の咲きが悪くなつた気がします。

3年ほど前に区役所が段階的に土地を買い上げ「七丁目緑地公園」を計画しています。このお寺にも、区の方の担当と、烏山総合支所の緑地担当の方が見えました。寺町のご住職十数人と話合いを持ち、いろいろな話が出ましたが、緑地公園と接しているお寺が唯一このお寺ということがあって、寺町全地域と緑地公園を合わせて進む計画は、ある意味大事になっていくのではないのでしょうか。これは私の私見ですが、寺町は江戸時代の歴史と文化があります。例えば忠臣蔵の歌舞伎に出てる俳句の宝井其角の墓、大河ドラマに出ていた喜多川歌麿の墓があります。寺町通りはまさに自然遺産と歴史遺産です。スケールが大きい話になってしまいました。

造園業の厳しい現状と未来

住職 小山さん、斉木さん、ご自分たちが緑の仕事をして、庭師の職人さんとして、テウニカルな部分と、大きな部分では人間にとつて緑が大事

ということを感じますか。
小山 私はおかげさまで、やはり緑を見てると視力が違うのかなと。造園業の現在の状況ですが、主にゼネコンで進められていて、それこそ高所作業車を使わないと高木の剪定は駄目とか、脚立や梯子は一切使用禁止。小規模のところでもきちんとした脚立の馬という感じのものを使用しなくてはかかるとか、ルールが厳しいです。

住職 それは労災的な意味もあるんですか。
小山 そうですね。一切高木に関して、そのまます登るなど、だから、それだけの資格を全部取らなくてはならない。この間も、ちよつと東京メトロ...。

住職 地下鉄ですね。
小山 地下鉄の工事で、植栽を和光のほうに、一時期移す作業がありました。それも本堂、三脚鳥居というの、もう本当に手で、脚立でちよつと登ればできる作業なんです。それも全部高所作業車を持ってきて...。かえつてそのほうが時間かかるし、やりにくいんですよ。でも、それは使わないと違反だ。昔は安全帯というものも簡単なものでした。今はフルハーネスというリウツクフツツのようなものを背負うのも資格を取つて、それをつけてやるんですよ。そこから落ちたらまとも地面に落ちるという感じが、高さんなんです。それをきちんと規制しよう。それぐらい今は厳しくなっています。

住職 でも、常時、高所作業車も持っていればいいのですが、随時使つていくわけですから、リースで借りるのも、リース会社との絡み合いで、ちゃんと会社なのかという調べも必要です。それと、雨天とかで期日が延びると、またその契約も延びる。

住職 先ほどの倒木問題ではないですが、公共の街路樹などの剪定、伐採とかをやっている造園関係の方は、本当に大変だと思つて、コストもすくつかかっているだろうな。今の小山さんのお話を伺つて、ますます難しい時代にきているのかなと思つてます。

小山 私たちの組合は、桜上水にある真言宗の密蔵院で樹木供養祭を一年に1回開催しています。その樹木の草花供養祭。
住職 そうですか、いいことですね。
小山 そのときもやはり砧公園の事故の話になって、私たちが思うには、道路とかを造つていく関係で、アスファルトからの熱が根に移つて、それがよくないのではと云われています。

住職 それで、土の下が弱つてしまつた。
小山 ですから、根がやっぱ張り張れないので、そのまま倒れたのではないかと。
住職 そうですか。斉木さんはやはりこの何年かで、高所で剪定などするわけですが、その高所の状況は変わつていませんか。
斉木 そういう環境の変化でやはり高木が枯れ、そういう木を切つてほしいというお願いが多いです。例えばここは、高所作業車を使いたくても、境内は、狭くて山門があり高さがあって入れませんので。
住職 そうですか。
斉木 道路を止めて高所作業車、クレーン車を置いて作業するとなると作業車も高所道路使用許可証、交通誘導員などの費用がかなりかかります。それで私のように高所ロープ作業の資格を持った特殊伐採、剪定

の技術が必要になります。

住職 お仕事の形態としては、小山さんのところは代々の植木のお仕事で、先ほどの組合さんと横のつながりもあるわけですが、斉木さんのところは皆さん集まって作業のパッケージごとにシンジケートを組んでいますね。それは、ふだんのお付き合いも大事でしょう。たまにはご飯食べるとか(笑)

斉木 そうですね(笑)特殊伐採を作業する業者は東京にも増えてきています。しかし技術力が違います。仲間がいたり、技術を上げるために今度福岡に行くというの...。

住職 ああ、福岡へ行くのですね。
斉木 そうです。大きな木をロープで作業する全国から集まって技術の競い合うレスキューの大会のようなもの(注:ツリークライミングジャパンは、ツリークライマー認定機関で、子どもから大人まで木に登る体験をしながら、下草刈りや枯れ枝などの剪定をする。これは木を健やかに成長させることにもつながり、ツリークライミングを楽しむながら自然環境の保護にも貢献できる。木になじみができて、ハーネスとかも子ども頃から体験できます。ツリークライミングをやつていけば、お寺にはたくさん木があるので、イベント大会を催せば面白いかなとは思っています。

住職 それはちよつと面白いかもしれないですね。
斉木 足の不自由な車いすの人も登れるみたいですよ。足の不自由な人にハーネスをつけてゆつくりと上げていきますので、普段見れない木の目線まで行けます。不可能ではないので元気がなつてくれると思います。また、私も町田市で子供に教えており、やはり子どもはすく喜んでくれて、次世代につなげますね。

住職 そうですか。日本列島の地図を見ると、人間が住んでいるところはホンの少いで、ほとんど山です。
小山 私たちの組合は、桜上水にある真言宗の密蔵院で樹木供養祭を一年に1回開催しています。その樹木の草花供養祭。
住職 そうですか、いいことですね。
小山 そのときもやはり砧公園の事故の話になって、私たちが思うには、道路とかを造つていく関係で、アスファルトからの熱が根に移つて、それがよくないのではと云われています。

住職 それで、土の下が弱つてしまつた。
小山 ですから、根がやっぱ張り張れないので、そのまま倒れたのではないかと。
住職 そうですか。斉木さんはやはりこの何年かで、高所で剪定などするわけですが、その高所の状況は変わつていませんか。
斉木 そういう環境の変化でやはり高木が枯れ、そういう木を切つてほしいというお願いが多いです。例えばここは、高所作業車を使いたくても、境内は、狭くて山門があり高さがあって入れませんので。
住職 そうですか。
斉木 道路を止めて高所作業車、クレーン車を置いて作業するとなると作業車も高所道路使用許可証、交通誘導員などの費用がかなりかかります。それで私のように高所ロープ作業の資格を持った特殊伐採、剪定

の技術が必要になります。

住職 お仕事の形態としては、小山さんのところは代々の植木のお仕事で、先ほどの組合さんと横のつながりもあるわけですが、斉木さんのところは皆さん集まって作業のパッケージごとにシンジケートを組んでいますね。それは、ふだんのお付き合いも大事でしょう。たまにはご飯食べるとか(笑)

斉木 そうですね(笑)特殊伐採を作業する業者は東京にも増えてきています。しかし技術力が違います。仲間がいたり、技術を上げるために今度福岡に行くというの...。

住職 ああ、福岡へ行くのですね。
斉木 そうです。大きな木をロープで作業する全国から集まって技術の競い合うレスキューの大会のようなもの(注:ツリークライミングジャパンは、ツリークライマー認定機関で、子どもから大人まで木に登る体験をしながら、下草刈りや枯れ枝などの剪定をする。これは木を健やかに成長させることにもつながり、ツリークライミングを楽しむながら自然環境の保護にも貢献できる。木になじみができて、ハーネスとかも子ども頃から体験できます。ツリークライミングをやつていけば、お寺にはたくさん木があるので、イベント大会を催せば面白いかなとは思っています。

住職 それはちよつと面白いかもしれないですね。
斉木 足の不自由な車いすの人も登れるみたいですよ。足の不自由な人にハーネスをつけてゆつくりと上げていきますので、普段見れない木の目線まで行けます。不可能ではないので元気がなつてくれると思います。また、私も町田市で子供に教えており、やはり子どもはすく喜んでくれて、次世代につなげますね。

住職 そうですか。日本列島の地図を見ると、人間が住んでいるところはホンの少いで、ほとんど山です。
小山 私たちの組合は、桜上水にある真言宗の密蔵院で樹木供養祭を一年に1回開催しています。その樹木の草花供養祭。
住職 そうですか、いいことですね。
小山 そのときもやはり砧公園の事故の話になって、私たちが思うには、道路とかを造つていく関係で、アスファルトからの熱が根に移つて、それがよくないのではと云われています。

住職 それで、土の下が弱つてしまつた。
小山 ですから、根がやっぱ張り張れないので、そのまま倒れたのではないかと。
住職 そうですか。斉木さんはやはりこの何年かで、高所で剪定などするわけですが、その高所の状況は変わつていませんか。
斉木 そういう環境の変化でやはり高木が枯れ、そういう木を切つてほしいというお願いが多いです。例えばここは、高所作業車を使いたくても、境内は、狭くて山門があり高さがあって入れませんので。
住職 そうですか。
斉木 道路を止めて高所作業車、クレーン車を置いて作業するとなると作業車も高所道路使用許可証、交通誘導員などの費用がかなりかかります。それで私のように高所ロープ作業の資格を持った特殊伐採、剪定

の技術が必要になります。

住職 お仕事の形態としては、小山さんのところは代々の植木のお仕事で、先ほどの組合さんと横のつながりもあるわけですが、斉木さんのところは皆さん集まって作業のパッケージごとにシンジケートを組んでいますね。それは、ふだんのお付き合いも大事でしょう。たまにはご飯食べるとか(笑)

斉木 そうですね(笑)特殊伐採を作業する業者は東京にも増えてきています。しかし技術力が違います。仲間がいたり、技術を上げるために今度福岡に行くというの...。

住職 ああ、福岡へ行くのですね。
斉木 そうです。大きな木をロープで作業する全国から集まって技術の競い合うレスキューの大会のようなもの(注:ツリークライミングジャパンは、ツリークライマー認定機関で、子どもから大人まで木に登る体験をしながら、下草刈りや枯れ枝などの剪定をする。これは木を健やかに成長させることにもつながり、ツリークライミングを楽しむながら自然環境の保護にも貢献できる。木になじみができて、ハーネスとかも子ども頃から体験できます。ツリークライミングをやつていけば、お寺にはたくさん木があるので、イベント大会を催せば面白いかなとは思っています。



昭和4年、麻布・狸穴から烏山へ移築した当時(妙壽寺鍋島客殿裡落慶法要)

が樹木地帯ですね。けれど、そんなに樹木がある日本が、なぜこんなに熱帯化に苦しまなければならぬかと思つたりします。

環境がだんだん変化して、10年、20年前では予測のできなかったことが増えていくわけですが、お寺としては先ほどの五丁目緑地計画で協議会ができて、その中でクライミングのお寺も竹林の管理がすく大事で、家内の指摘によれば、古い竹林の場所ももうタケノコは出ない。新しいところから出てくる。つまり、根も充実している。でも、お寺さんにそういうことを少しずつ知つていただく。また、昆虫とか動物との樹木の関連もあり、すく大事なことかもしれない。今の斉木さんのお話、非常に参考になりました。

住職 これからの代にお寺を引き渡し、檀家さんも継承していただく中で、私としては、お手元の冊子「妙壽寺の四季」がお参りに来山するお檀家さんに、境内の季節の変化を感じてもらえればと発行しました。これからは厳しい中でも自然を護り維持していきたいと思つています。この妙壽寺と関わっていただけて、小山さんは3代目、斉木さんはまだ10年程の経験から、お寺に対する要望、提案はありますか。

小山 妙壽寺さんは、寺町通りの一番奥のお寺さんで、それも一番大きいお寺さんでもあります。あの門のところが一番の顔ではないかと...。

住職 6年後に、日蓮聖人のお亡くなりになって750年の記念事業がありますが、それに向けて門から入つてすぐのあすまの辺がかなり荒れているので、そこを何とかしたいと思つています。門のところは、やはり車の駐車との取り合いがあるので、難しいな。けれど確かに門というのは、建築でいえばファサードという顔になる部分なので、それは小山さんとしては大事にしてほしいというところですね。

小山 そうですね。
住職 先だつて、モチノキの剪定していただいた小山さんには、蓄積した3代のテクニクで、これからお寺にいろいろなご提供していただきたいと思つております。

斉木 小山さんはいかがですか。
小山 起業して8年経ちましたが、歴史あるお寺で作業したことを誇りにして、お客さんにも知り合いにも言つて、やはりすこいねと言われます。自分も鎌倉のお寺で修行していたこともあって、お寺に何か縁があるといえますか、やはり入らせていただけているのは非常にありがたいなと感じています。

住職 先ほど、お檀家のためということもありましたけど、お寺というのにも公益法人の1つですから、やはり地域に少しでも貢献できるように常々思っています。それを本当に手助けしていただける大事な方とお話したいと思つております。

今日(2024年)は念願であったお寺の方に、前提としては、やはり樹木環境を守つていきたいというのがお寺の中長期の考えです。それについていろいろお話を伺っていただき、本当にありがとうございます。今後ともお寺のこれからについて、ぜひまたお力添えいただきたいと思います。

本日はありがとうございました。(一)